

### 第3回 金沢市都市計画マスタープラン策定委員会 議事要旨

日時：平成20年3月28日 10:00～12:00

場所：金沢市役所 本庁舎7F 第3委員会室

#### 【金沢市都市計画課長挨拶】

#### 【都市づくりの方針説明】

(委員) 金沢の中心市街地は城下町の歴史が基盤としてあり、歴史的要素は見逃すことができない非常に大事な視点である。

戦前に建てられた歴史的建築がまだ中心市街地に残っているが、その保全に大きく関わるのは街路であり、今後、これらをどう考えるのかが非常に大きな課題である。防災の視点からは、逆にそれがネックとなり、道路を広げることなく防災ができないかということも課題である。

かつては「森の都」と言われた前庭の緑が駐車場の乱立によってことごとく消滅している点も問題であり、道路を拡幅すれば、さらに前庭が削り取られることになりかねない。公共交通の充実、歩いて暮らせるまちづくりの充実も含めて、街路や歴史的住宅の保存、継承、活用に向けた対策が必要である。近代的都市景観創出区域にも、まだ結構めばしい歴史的建築物・住宅が残っているので、それらのことも気がかりである。

また、中心市街地の活性化に向けては、できるだけ人口を中心市街地に戻したいという願いがあり、都心部に住まわなければ活性化を推進できないと思う。そのためには、日常的に買い物できるような生活関連施設をこれからどのように整備していくかということも一方で考える必要があると思う。

(委員長) 関連して、全体的に金沢の都市計画マスタープランとしての特徴が非常に希薄に見える。中心市街地などの扱いが後回しになっているせいかもしれないが、用語の使い方を含めて、全国どこの都市でも通用するようなゾーニングや区分になっており、何一つとして金沢独自のものが出てこないのはいかがでしょうかと思う。

歴史的建物の保存についても、独自条例を作るなど、いろいろな施策を展開しているが、これについてほとんど記載していないように思われ、都市づくりの方針はこれで確定するのではなく、もう少し表現を含めて検討したらよいと思う。

(委員) 屋上から中心市街地を眺めると全体的に白い感じであり、まちなかに人がどんどん住んでもらうためには、この白いまちなかの都市空間の緑化をどのように進めていけばよいかという点にも重きを置いていったらよいのではないかと。

(事務局) 全般的な土地利用の考え方については、前回の委員会で郊外部の緑、土地利用のあり方を自然、農林にも踏み込んで示すことが必要ということで、外回りを少し押さえていきたいという思いがあった。

最も大事な金沢市の基本的スタンスとして、金沢のまちなみが残っているエリアをどのように今後住みよい形に少しずつ動きを持っていくのかということは当然あると思う。

景観に関する具体的な内容については、景観審議会の中でもいろいろ議論があって方向性がはっきりしていないこともあり、そこをまずしっかりと押さえないと、本来のあり方がなかなか定まらない。

金沢特有の街をどのように活かしながら緩やかにコンパクト化していくかが一番大事な点と認識しており、その場合に、今のままの道路形態、整備率でよいのかということも当然関わってくる。

金沢市の都市計画道路の整備率は、今年度末時点で約 75%とかなりの整備水準に上がってきており、今後は公共交通を大事にしていこうという考えや、生活道路については行き止まりの解消、隅切り確保などの部分的改善による緊急車両の通行円滑化を方針として掲げている。どんどん新しく造り変えていくような考えは通用しないと認識している。

今後、歴史遺産保存マスタープランや景観マスタープランなどの策定状況を見据えながら、歴史性を踏まえた中心市街地のあり方などについてしっかりと押さえていく考えであるが、今回はその外枠を中心に記述しているため、金沢らしさがないというご指摘をいただいたのではないかと思います。来年度にはこの点を含めて深めていく考えであり、事務局としても、今回で終わりということとは考えていないので、ご了解いただきたい。

(委員)

市街地整備の方針において、歴史的資源を活用したまちづくりなど、金沢らしさを反映した方針を盛り込むことが望ましい。また、交通政策にも関連して、中心商業地のトランジットモール化といった活性化方策などについても記述してはどうか。さらに、安全安心都市づくりの方針にも関連して、能登半島地震を教訓にもう少し防災対策を都市計画マスタープランの中に盛り込んではいいいのではないか。

土地利用の方針について、地域商業地の内、既に住宅地化されている額住宅駅前等がある一方で、近年商業集積が進んでいる示野、無量寺、大桑の大型店もあり、箇所を見直すべきではないか。

道路交通整備の方針について、表題は「新しい交通環境の整備の方針」など公共交通をすべて含めた表現の方がよい。また、自転車・歩行者に関する「まちなか歩行回廊」については、「兼六園文化の森」という形で金沢らしいものを整備していただきたい。

公園緑地整備の方針において、市街化区域内農地の扱いに関する具体的な施策などについて記述があったほうがよい。

(事務局)

これまで市街化区域内の農地は宅地化されるべきものと考えられていたが、これからは市民の皆さんの意見を取り入れながら行政内部でも再度考え直していく段階にあるのではないかとということで、頭出しをさせていただいたものである。

雨水の流入や地震時の避難地、延焼防止スペース、市街地の緑など、いろいろな意味で評価すべき点があると思われ、この先、人口を徐々に中心市街地に誘導していく中でも、郊外市街地における菜園付き住宅や市民農園の提供など、本来の産業としての農業とは異なる形態での市街化区域内農地の活用は、今後、大きな要素となりうると考えているところである。

(委員長) 内容として堅実すぎる印象があり、20年の計画期間を想定しているのであれば、もう少し何か実現に向かっていく“夢”のようなものを記載してほしい。

(事務局) 金沢市のまちづくりを進める上では、歴史的な要素が最も集まっている中心市街地を外しては考えられず、当初は第4章の重点的都市づくりプロジェクトもあわせて提示する予定だった。

しかしながら、現在、本当に歴史的価値のあるものを歴史遺産マスタープランにおいて調査、構築しているところであり、中心市街地について記述する際に、その本物の歴史に対する歴史遺産の展開、答申を待たせていただいているところである。

今回、ご提示させていただいた方針において、地味ではあるが、これまでと画期的に異なることは、今後、公共交通政策と土地利用政策をリンクさせて考えていこうとする点である。

これから先、新幹線開業に向けて、具体的に実行していかなければならない計画があることも影響し、全体構想の中では飛躍的な内容を抑えている傾向があると思うが、今後、いろいろと検討させていただきたい。

(委員) 周辺市町村を含めた金沢都市圏としてコンパクトシティを考えていった方がよいと考えるが、土地利用方針図では、城北市民運動公園から瑞樹団地にかけてのエリアを市街地に位置づけておらず、これで本当に中心部が中心になり得るのか疑問に思う。金沢都市圏全体を一つの都市として捉えた場合、金沢市としてはもう少し市街地を拡大する方向でもよいのではないかと。そうしなければ都市圏全体としてのコンパクトシティ化を目指すのは難しいと思う。

公共交通に重点を置くためには住居地の集積が必要であると考え、金沢市では現状でも住居の集積地が偏っている感があり、周辺地域の市街化も含めて、公共交通と住居の集積を一緒に考えたまちづくりが必要ではないかと思う。

(委員長) 都市圏全体の計画としては、石川県が金沢市計画区域のマスタープランを策定しており、本計画は、これを念頭に置きながら金沢市に限定せざるを得ない面がある。

(委員) 公共交通機関について、環境配慮のためにバスを利用して郊外部から中心部に向かう際には、かなりの料金がかかる上、ピーク時以外は本数が少ない問題もあるため、郊外部と中心部の中間にパーク＆バスライドの駐車場をもっと設けてほしい。

まちなかに入ると小規模な駐車場があちらこちらに数多く点在しているが、まちなかは緑豊かであってほしいため、まちなかまで車が入ってこないように対処してほしい。

(事務局) パーク&ライド駐車場については、中環状道路より内側は基本的にバスを利用していただきたいとのことで、その最前線で集中的に配置していこうと現在も取り組んでいる。

(委員長) パーク&ライドの推進にあたっては、バス料金を全て半額にしてしまうぐらいでないと無駄な投資となる可能性があり、この対処についても都市計画マスタープランの中で意見をいただいて記載してはどうか。

(事務局) 都市計画マスタープランはその基本的な方向性を提示するもので、料金を半額にするなどの具体策については部門別計画で示すべきものと考えている。本都市計画マスタープランの中では、公共交通が鍵になることを明記しており、今後、公共交通と開発をリンクさせて整合性を図っていく考えである。

居住地の集積がないとバス交通が成立しないのご指摘はもっともであり、終の棲家を選ぶ際に、公共交通の利便性がある程度確保された場所へだんだんと転居いただくことが、具体的に行政が都市のコンパクト化に働きかけることができる数少ないものと考えている。

今、金沢市が目指すべきは、U・J・Iターンなどによる流入に対して都市内で集積を図る形に変えていくことと認識しており、新たに住宅団地を造って集積を図ることは、今の時代の流れの中では難しい点がある。

能登や加賀がどれだけ過疎になってもよいから人口を金沢に集め、新しく市街地をどんどん拡大していくことについては、それぞれの地域にも守るべきものがあり、さすがに金沢市としてはそこまでは言えない。

(委員) 金沢への一極集中が進むことはよいことではなく、「適正な市街地規模への誘導」という点でしっかりと歯止めがかかることは重要な視点であり、コンパクトシティが一極集中を支えていくような議論になることはナンセンスである。むしろ、私たちの生活の質をしっかりと支えていくことを前提に、これまで漫然と膨張してしまっていて維持しきれなくなる都市を適正な規模に縮小していく、都市生活を支える重要な基盤にもかかわらず今まで破壊してきた農地をちゃんと戻していくことがこれからのコンパクトシティの基本的な思想にならないといけないのではないかと。

また、市街地整備の方針について、商業ビルに居住スペースを確保することはよいことと思うが、高齢者の一人暮らしでも入居できるのかという問題が気になっている。これからの都市、特にコンパクトシティでは、商業地といっても住居と混在しながら多機能な中心地になっていくと思われるが、中心市街地と中心商業地の関係、イメージがよく分からない面がある。

道路交通整備の方針は「交通」という概念を基本にタイトルをつけるべきであり、その中で「中山間地域におけるモビリティの確保」につい

では具体的な議論が始まっているのか、それとも問題提起として提示しているのかをお聞きしたい。

一方、中山間地域の居住問題について、医療や教育にかかわる問題も含めて都市計画マスタープランである程度カバーして位置づけることは非常に重要なことではないかと思う。

地球環境保全に関連して、これからの都市と農山村の良好な展開を考えると、太陽光発電よりも地域にある自然エネルギー、特に農山村から期待できるバイオマスを例示した方が地球環境保全と都市づくり、地域づくりがより結びつくと思う。

(委員長) 都市計画マスタープランの構成として古い体質を引きずっている感があるが、時代の流れに沿った新しい視点を先取りするのが都市計画マスタープランであり、このような新しい視点からの意見を踏まえて、理念的なものを盛り込みながら記述する必要があるように思う。

(事務局) 中心市街地を高密度でさらに利便性を高めようとするれば、多様な施設が存在が大切であり、商業地域では住宅は一切駄目だということではなく、交通の利便性の高いところの土地利用を高度化していく考えである。

一方、中山間地については、現在、農林部局でも議論しているところであるが、農業サイドだけでは改善できないところもあって、退職者や若者なども取り入れるような制度を含めて活用策を検討しており、方向性を示す形で書き込めれば対応させていただきたい。

広域的な行政、地域連携、商業展開については、石川県がイニシアティブをとって調整しており、金沢市だけでは議論が難しい面もあが、金沢市としての方針も大事と認識している。商業展開については、郊外では大規模施設の立地は不可という法的な担保が確立されているほか、まちなかでも一定規模以上の集客施設はコントロールすることなどを書き込んでいきたい。

(委員長) 中山間地居住の問題は農業政策で扱っておらず、都市計画として扱わないと、どこも扱わないことになるため、この都市計画マスタープランの中で、自然環境保全も含めて、もっと積極的に扱ってほしい。

(委員) 都市計画マスタープランの策定にあたっては、上位計画の枠組みの中で、どうしても網羅的にならざるを得ず、冒険的な記述も流動的な面があってもなかなか難しいことについては好意的には理解している。

ただし、生活道路の扱いについては、場当たりの個別対応で整備しているのが現状であり、金沢市ぐらいであれば、もう少し踏み込んで、金沢らしさや防災、景観の観点からのサポートも含めた地域ごとの生活道路の整備計画を策定するなど、他地域に先駆けた取り組みに関する記述がほしい。

また、公共交通としての鉄道に関する記述がやや遠慮しているように思われ、並行在来線の第三セクター化を見据えて、地域の生活鉄道的な位置づけで新駅を設置するなど利便性を高める施策を検討するといった

方針を盛り込んでほしい。

一方、中山間地域のモビリティ確保について、今は顕在化しているところは微々たるものかもしれないが、今後 10 年、20 年先には確実に放っておけなくなる問題であり、居住や医療、コミュニティを支えるものとして、もう少し記述してほしい。

さらに、駅前広場の整備にあたっては、交通結節点といいながらもパーク&ライド機能の確保や路線バスの増強といった話がありすぎておらず、広場だけを整備しても利用者は増えないので、結節点機能を強化するものを具体的に盛り込んでほしい。

なお、パブリックコメントの実施にあたっては、専門的な用語の説明を加える必要があると思う。

(委員長) 生活道路整備に関する観点としては、交通、防災を中心にするよりも特に中心市街地においては居住の問題を第一に考え、歴史性を踏まえた中で取り組むべきと考える。防災道路を目標に整備すると、歴史的なものとの矛盾が生じるため、交通や防災一辺倒の取り組みは是非とも再検討いただきたい。

(委員) 金沢都市圏としてみた場合、金沢市がコンパクトシティ化をがんばって推進しても、周辺のかほく市などで大規模な商業施設が立地しつつあることを考えると、金沢市への集中度合いはまだまだ甘いように思う。

(委員) 金沢市の特徴の一つになるのは全国的にも評価されている景観に対する取り組みであり、その内容は十分に記載されていると思うが、沿道景観や屋外広告物に関する対応など、是非とも金沢の特徴的な内容をさらに盛り込んでほしい。

また、公共施設整備の方針について、金沢市では文化施設等の数が非常に多く、これらの今後の活用策についても触れておくとよいと思う。

(委員) まとめ方が古いという話については分からないでもないが、実際に都市計画マスタープランに基づいて制度的に物事を進めていくとなると、古いとはいえ、今までのような形をとらざるを得ない面もある。

また、都市全体を見た上で、例えば「居住環境」といった目的、目標別にまとめていくのが最も分かりやすい形だと思う。住宅以外にも中心市街地の活性化や都市防災の話題など、切り口を変えて、各項目で記述していく方法もあると思う。

(委員) 中心市街地における公園緑地について、ポケットパーク的なものも含めていくつか整備されているが、どこの都市でもあるような一般的なものがほとんどなように思われ、周辺のまちなみとの関連の中で、歴史的な文脈に合った整備をお願いしたい。

また、平野部も含めて農村にも景観があるが、障害要素が多々出てきており、その点への対処も考えていただきたい。

一方、バス料金については、「半額にする」とは書きにくいまでも、「低料金化」「適正化」といった表現で盛り込んでほしい。「トランジットモ

ー化」にしても同様に「中心市街地での車抑止策を検討する」というように表現を変えて盛り込みたい。

(委員) 外環状道路の内側で空白地帯が出てくるが、隣接する市町村と同じような歩調の中で、都市計画上の連携といったものはあり得ないのか。

また、金沢市全体を空から見たらどのような状況なのかを示していただくと、それを踏まえて将来的にどのような方向性で金沢の都市計画に反映させていけばよいのかが分かりやすいと思う。

将来に向かっての都市計画としては、既存のものではできるだけ手を加えずに温存するだけでなく、もっと大胆に変えることが可能なところは変えていくべきではないかと思う。

(委員長) これまでの成長発展期には、そのような形で市街化を図ってきたのだが、これからは少し時代に合わないと思われ、この都市計画マスタープランの中でも提唱しているように、市街地を拡大しない方向で進むべきだと思う。

(事務局) 隣接市町村との都市計画上の連携について、基幹的な道路基盤などについては、広域的な連携が大事であり、県土軸も含めて金沢都市圏としての都市計画の中で位置づけているものである。市町村間を広域的に連絡する道路はなるべく石川県が整備する取り決めとなっており、市町村によっては財政状況が異なるために整備水準に差があるが、基本的にはお互いに情報交換、連携して整備を進めている。

人口についても、金沢都市圏の枠組みの中で取り決められており、それぞれで拡大の議論をしようとするとお互いに取り合いになる。今回、将来人口フレームの予測結果を提示しているが、金沢市としては、基本的に今後の市街地拡大は無理があると認識している。

#### 【将来人口フレーム説明】

(委員) 暮らしやすい都市であれば少子化に対応できて人口が増えるため、将来的な計画人口を目標とするよりも、都市の環境を整えていくことを目標とすることが必要だと思う。

(委員長) これも成長発展時代の産物として古い体質を引きずっているものであるが、制度上は示さざるを得ないものである。

金沢世界都市構想第2次基本計画ではまだ微増を目標としているが、この都市計画マスタープランで初めて減少を位置づけたことは画期的であり、まずは第一歩を踏み出した印象がある。

(委員) 本来、都市計画マスタープランを考えていく上では、まちなか、郊外、中山間地といった大まかなゾーン別にもう少し踏み込んで居住人口を予測する必要があり、そこまで求められていないので仕方がないとは思いますが、そこは踏み込んでほしい思いがある。

また、新幹線が開通し、外国人来訪者のことも考えると、交流人口は今後確実に増える、増やしたいとの思いがあることから、チャレンジと

- してこれをどこかに反映させた“金沢方式”なるものを考えてはどうか。
- (委員長) 地域別に居住人口を推計することについて、是非とも金沢市としても新年度に実験的に取り組むかどうか検討いただきたい。交流人口についても、すでにマンション居住や町屋の活用動向などの事象が現れており、具体的に検討していくことも非常によい機会かと思う。
- (事務局) 将来人口フレームについては、考え方の大きな方向性の提案ということで、別紙にさせていただいたものであり、来年度に地域別構想を策定していく中で、できるだけ各地域のベースを活かした捉え方について、許されるデータの中で検討してみたい。
- ただし、国の制度において、都市計画マスタープランとして人口フレームを提示しなければならず、これは定住ベースで基盤整備と連動するものであることから、交流人口の扱いがこの制度自体になじまない面がある。このため、交流人口は、別の考え方として都市づくりに反映させていくように配慮させていただきたい。
- (委員長) 都市計画マスタープランは、本来的には、「都市」という冠を取って、中山間地や山林までカバーした総合的な計画であるべきだと思う。しかしながら、金沢に限らず全国的な話として、現実には分野別にマスタープランがあって、都市計画マスタープランが中心的な計画という位置づけに必ずしもなっていないことがよくない。
- 金沢市で特に問題に思うのは、歴史的な環境、景観面が頑張りすぎている点であり、むしろ、都市計画マスタープランを中心に進めていくことを絶えず確認すべきである。景観のゾーニングが示されているが、景観独自で無理にゾーニングを行う必要は無く、むしろ、都市計画マスタープランのゾーニングとの整合を図るべきである。
- 都市計画マスタープランが全体をコーディネートする総合計画だというつもりで、是非とも書き込んでいただきたい。来年度は、全体構想の充足を含めて、重点的プロジェクトや地域別構想について議論を進めていきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- (事務局) まだまだ書き込みが足りないというご指摘をいただいたが、地域別の構想を具体的に提案させていただく前に、もう少し全体構想に厚みを持たせ、より具体的な点もお示しできるようにしたい。
- 次回の委員会は、少し時間をいただいて夏頃の開催を考えているので、日程を調整させていただき、また次年度もよろしく願いしたい。
- 本日はどうもありがとうございました。

以上